

鉄道・バスに乗ってみよう!

問合せ先 市役所都市経営課企画担当 (☎31-4502)

私たちが住む釧路市には、網走方面へ向かう釧網線や根室方面に向かう花咲線、帯広方面に向かう根室線など釧路駅を中心とした3本の鉄路がある他、路線バスの公共交通ネットワークが張り巡らされており、それぞれ通勤、通学、通院といった日常生活の足として、また観光の際の移動手段として生活や産業を支える重要な基盤となっています。

人口減少や少子高齢化、自動車利用の著しい増加などを背景に、依然厳しさを増す公共交通を持続可能なものとしていくためには、「みんなで公共交通を守り育てる」意識を持ち、自動車に頼りすぎることなく「かしこく公共交通を利用していく」ことが重要です。

皆さん、日々の生活や地域の魅力再発見の機会として、鉄道・バスに乗ってみましょう!

「SL冬の湿原号」運行開始! ～鉄道旅に出掛けてみませんか?～

問合せ先 くしろ地域冬季観光開発協議会事務局 (市役所観光振興室内☎31-4549)

今年もSL冬の湿原号が、いよいよ1月23日(出)から運行を開始します。

JR釧網線の釧路駅から標茶駅までの約50キロメートルを1時間30分ほどかけて走るSL冬の湿原号は、昨年、運行開始から20周年を迎えました。黒煙を上げて真っ黒な車体が鉄橋を渡る姿は、まさに釧路の冬の風物詩です。

そんなSL冬の湿原号、いつもはその雄姿を外から眺めているだけではありませんか?車内に一歩足を踏み入ると、そこはレトロな雰囲気にもまれ、日常とは違った空間が、ちょっとした旅行気分を味わわせてくれるはずですよ。

今年の冬はぜひ、SL冬の湿原号で旅に出掛けませんか?



▲JR釧網本線維持活性化実行委員会事業「ひがし北海道フォトコンテスト」金賞作品

「SL冬の湿原号」の運行概要

■運転日

1月23日(出)・24日(回)、30日(出)・31日(回)
2月5日(金)～14日(回)、19日(金)～23日(火・祝)、27日(出)・28日(回)

■発着時間

釧路11:05発 標茶12:35着/標茶14:00発 釧路15:42着

■料金(片道料)

乗車券1,290円+指定席券840円(全席指定席)、小学生以下半額※運行に関するお問い合わせは、JR北海道電話案内センター【☎011-222-7111(6:30～22:00)】へ

車中での楽しみ

●ダルマストーブ(石炭ストーブ)

客車には各車両にダルマストーブが設置されています。車内販売で売られているスルメなどを自分で焼いて食べるのも、SL冬の湿原号の楽しみ方の一つです。



●車内販売

2号車カフェカーの車内販売では、車内限定販売の「SLプリン」や飲み物などを販売しています。また、車内でしか手に入らないオリジナルグッズもあり、旅の記念に買ってみるのも良いのでは。



茅沼駅とタンチョウ

現在は無人の茅沼駅ですが、昭和30～40年代にかけて歴代の駅長がタンチョウの餌付けを行い「タンチョウの来る駅」として全国にその名が知られました。



遠くに阿寒連峰が見えます

向かって右から標高1,371メートルの雄阿寒岳、その左に目を移すと標高1,499メートルの雌阿寒岳、一番左の整った形の山は標高1,476メートルの阿寒富士です。車窓から釧路湿原越しの阿寒連峰の山並みを楽しめます。



「SL冬の湿原号」利用者限定「グルメ号」を運行

終着となる標茶駅では、SL冬の湿原号利用者限定のサービスとして、標茶町内の飲食店までジャンボタクシーで無料送迎を行っています。

■運行日 SL冬の湿原号運転日の12:35ごろ～14:00ごろまで

※専用パンフレットをご覧ください。標茶町観光協会(☎015-485-2264)までお問い合わせください。

シラルトロ湖

達古武湖、塘路湖と共に湿原三湖と呼ばれています。周囲約9.8キロメートル、最大深度約3メートル。タンチョウやハクチョウ、カモ等の他、湖には、オオワシやオジロワシなども訪れます。

塘路湖

周囲約17.9キロメートルの塘路湖は、釧路湿原最大の湖で、フナやコイ、ワカサギなどが生息し、冬は氷上でのワカサギ釣りなどにぎわいます。また、厳寒期には、結氷した湖面の一部が裂けて盛り上がる「御神渡り」を見ることが出来ます。

釧路川最接近

釧網本線は、釧路川に沿って線路が伸びており、ここが最も釧路川に接近するポイント。車による移動では見ることができない釧網線ならではの景色が車窓から広がります。



SL冬の湿原号についてはこちら→